

— Duo Lapis 新シリーズ始動 —

Youth to Wisdom

年齢でたどる音楽の軌跡

作曲家たちは、
何歳のとき、この作品を書いたのか？

第1回 若き才能のきらめき

すべて20代で書かれた珠玉の作品!

2026年

6月27日(土)

開場 14:30/開演 15:00

入場料: 会員4,500円(座席指定可)

一般5,000円/学生2,500円(全席自由席)

Violin 坪井夏美 Piano 大崎由貴

ご予約はこちら



Program

- モーツァルト(22歳):
ピアノとヴァイオリンのためのソナタ 第22番 イ長調 K.305
- ウェーベルン(27歳):
ヴァイオリンとピアノのための4つの小品 Op.7
- シューベルト(29歳):
ヴァイオリンとピアノのためのロンド ロ短調 D.895
- ラヴェル(22歳):
ヴァイオリン・ソナタ(遺作)
- R.シュトラウス(23歳):
ヴァイオリン・ソナタ 変ホ長調 Op.18



123
Shibuya Mirake Salon (vol.195)

©JUNICHIRO MATSUO

— Duo Lapis 新シリーズ始動 —

Youth to Wisdom

年齢でたどる音楽の軌跡

2026年6月27日(土)

開場 14:30/開演 15:00

入場料: 会員4,500円(座席指定可)/

一般5,000円/学生2,500円(全席自由席)

123
Shibuya Mitake Salon (vol.195)

作曲家たちは、何歳のときにこの作品を書いたのか?

「Youth to Wisdom 一年齢でたどる音楽の軌跡」第1回に寄せて

Violin 坪井夏美 Piano 大崎由貴

「この美しい音楽は、作曲家がいつ、何歳のときに生み出したものなのだろうか」と思うことが、しばしばある。

ベートーヴェンやブラームスの後期作品を聴いていると、「ああ、人生を積み重ねてきた深さがあるなあ」と感じる。

モーツァルトには、若い時代にも晩年にも一貫した純真な美しさがあるが、それでもその人生の折々にあった出来事や感情が、どこかに滲んでいるように思われる。

いつだっただろう。

当時18歳ほどの、たいへん才能あるピアニストの演奏を聴いたとき、「若さがそのまま武器になっている。

なんて大胆で、人を惹きつける演奏なのだろう」と、猛烈な衝撃を受けたことがあった。

だから、若いから未熟だとか、年を重ねているから素晴らしいとか、そう単純に言えるものではない。

それぞれの時期にしかない魅力があり、それを感じ取れるこそが素晴らしいのだと思う。

坪井夏美さんと大崎由貴さんによるデュオ・リサイタル「Youth to Wisdom 一年齢でたどる音楽の軌跡」は、まさにそうした作曲家の人生を通じた音楽のドラマを、たいへん魅力的な視点から浮かび上がらせてくれる企画である。

第1回「若き才能のきらめき」に集められた作品は、いずれも作曲家たちの20代の仕事だという。モーツァルト22歳、ウェーベルン27歳、シューベルト29歳、ラヴェル22歳、R.シュトラウス23歳。20代、とひとくちに言っても、それは単に若いということではない。

感受性の鋭さがなお世界に向かって大きく開かれ、同時に自分だけの語法を獲得しようとする緊張が、最も純粋なたちであられる時期でもある。

音楽には、その年齢にしかない切実さのようなものがある。

しかも興味深いのは、若さといっても単なる未成熟では決してないことである。

モーツァルトにはすでに人を惹きつけてやまない自然な気品があり、シューベルトには抒情の翳りがある。

ラヴェルには洗練の芽が見え、R.シュトラウスには才気のはたとしりがある。

そしてウェーベルンには、後年へとつながる凝縮された美意識がすでに宿っている。

若さとは、未完であると同時に、未来のすべてを予感させる時期でもあるのだ。

こうした作品群を、作品への深い理解としなやかな感性をもつ二人が、どのように描き分けるのか。

この“Duo Lapis(デュオ・ラピス)”と名付けられた坪井夏美さんと大崎由貴さんのデュオには、ラピスラズリ(アフガニスタン産の紫みを帯びた深い青、瑠璃色と称される貴石)のように静かでありながら、内側から確かな輝きを放つ個性がある。

その音楽は、常に“真実”を追求しようとする姿勢に裏打ちされている。

前シリーズ「ベートーヴェン&シューベルト ヴァイオリンとピアノのためのデュオ作品全曲演奏会(全5回)」でも、作品の精神に真摯に向き合おうとする、ひたむきで誠実な意志が鮮やかに感じられた。

坪井夏美氏は、2023年3月までベルリン・フィルハーモニー管弦楽団カラヤン・アカデミーに在籍し、同団公演に100回以上出演。

東京フィルハーモニー交響楽団第1ヴァイオリン・フォアシュペーラーを経て、現在は同団アシスタント・コンサートマスターを務める、いま最も注目されるヴァイオリニストのひとりである。

室内楽からオペラまで幅広いレパートリーをもち、その演奏には知性と広い視野、そして抜群のバランス感覚が宿る。

音色は明確な輪郭をもち、暖味さを排した芯の強さと、磨かれたセンスが光る。

“オーケストラの耳”をもつ彼女ならではの、はっとさせられる解釈もまた大きな魅力である。

ピアニストの大崎由貴氏は、第18回東京音楽コンクールピアノ部門第2位(最高位)、第4回マンハッタン国際音楽コンクール特別金賞受賞など、輝かしい実績をもつ。

東響、東京フィル、新日フィルなど国内主要オーケストラとの共演も数多く、ソリストとしても高く評価されている。

彼女のピアノは、大自然の中から湧き上がるような和音の豊かさと、包み込むような音色が印象的だ。

波が寄せては返すようなレンジの広さと、躍動感あふれるダイナミズムは、まさにオーケストラ的な響きを感じさせる。

藝大での同期という関係性、そして留学先での再会が、ふたりの本格的なデュオ活動の原点となった。

同じビジョンを共有しながら音楽に生命を吹き込むふたりの音は、心地よく、洗練されたセンスをもちながらも、鋭さと熱い対話に満ちている。

互いの個性がときに鮮やかに交差し、深く響き合う様子もまた、このデュオの大きな魅力だ。

音楽を愛する方にはもちろん、クラシックに新鮮な入口を求める方にも、このシリーズの始まりをぜひ一緒にいただきたい。

若き日に生まれた作品たちの輝きが、彼女たちの演奏によって、いま鮮やかによみがえるはずである。

(渋谷美竹サロン)

©JUNICHIRO MATSUO

坪井 夏美
(TSUBOI Natsumi) Violin

第12回東京音楽コンクール第1位及び聴衆賞、マイケル・ヒル国際コンクール第4位、フリッツ・クライスラー国際コンクール第5位、第81回日本音楽コンクール第3位受賞。

ソリストとして読響、都響、新日本フィル、日本フィル、東響、九響、東京フィルなど多数のオーケストラと共演。

東京芸術大学附属高校、同大学、同大学院修士課程を修了。

在学中に安宅賞、アカンサス賞、大学院アカンサス賞を受賞し、大学卒業時に皇居内御前演奏会に出演。

明治田園クオリティライフ文化財奨励学生としてウィーン私立音楽芸術大学修士課程を修了。

Chanel Pyramallion Days 2018 アーティスト、NHK 東京FM「リサイタル・ノグチ」、NHK Eテレ「らぶらクラシック」。

宮崎国際音楽祭等に出演。これまでの、原田幸一郎、清水涼子、榎谷美千子、漆原朝子、ビョール・アモイヤル、堀正文、ハヴヴェル・ヴェルニコフ、櫻木大進の各氏に師事。

ベルリンフィルハーモニー管弦楽団・カラヤンアカデミーを修了。同管弦楽団の公演に100公演以上出演。

現在、東京フィルハーモニー交響楽団アシスタントコンサートマスターを務める。

大崎 由貴
(OSAKI Yuki) Piano

広島市出身。

第18回東京音楽コンクールピアノ部門第2位(最高位)、第5回アルコ・ボッパ国際室内楽コンクール(ボルトガル)最高位、併せてボルトガル作品賞受賞。

ソリストとして東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、大阪交響楽団、広島交響楽団等のオーケストラと協演。

定期的なソロリサイタルを行う他、弦楽器や管楽器奏者とのアンサンブルでも積極的に活動し、バロックから現代に渡るまで幅広いレパートリーを開拓している。

広島大学附属高等学校卒業。東京藝術大学音楽学部をアカンサス音楽賞、藝大クラウディア賞、同声会賞を受賞し卒業後、渡欧。ジャック・ルヴィエ氏に師事し、サルツブルク・モーツァルトウム大学修士課程を首席で卒業後、同大学ポストグラデュエート課程を修了。

令和2年度文化庁新進芸術家海外研修員。

現在、愛知県立芸術大学ピアノコース、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校にて非常勤講師を務める。

website : <https://www.yukiosakipianist.com>

日本のトップクラスの演奏家たちが、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。

渋谷美竹サロン(美竹清花さろん)が追求する

“本物の音楽”は、演奏者と参加者とわたしたちの、
三位一体の努力と対話から生まれます。

X(旧Twitter)

Instagram

LINE



●お問い合わせ

株式会社 ILA 渋谷美竹サロン (美竹清花さろん)

東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)

☎ 03-6452-6711 (月・金 10:30-17:00)

070-2168-8484 (繋がりにくい場合)

Fax 03(3409)0188



公式Webサイト

